

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校

校長 大塚 潤

「自立」「自律」の心育をしよう

新入生保護者説明会にて

校長挨拶

2月14日に、本校体育館にて「新入生保護者説明会」を行いました。
中学校は「自立」「自律」の心を育てるところというテーマで挨拶しましたので以下紹介します。

さて、いよいよお子様が桜馬場中学校に入学する日が近づいてまいりました。これまでのお子様の健やかな成長を心より喜び申し上げます。今日から5日後の4月10日が入学式になります。現在のところ、7つの小学校から127人が入学予定です。これから始まるうとしている義務教育の後半、仕上げる3年間の中学校生活がお子様にとってどのようなものになるのか、いろいろと想像し、期待と不安が入り混じっていることと思います。今日は、子供にとって、中学校という場はどういう意味をもつのか。私たち大人は、子供どのようにに接すればよいのか。親として、学校教師として大切にしたい「心構え」についてお話しさせていただきます。

言うまでもないことですが、中学校というのは一言でいえば、大人になるための準備期間としてあるということ。自分一人で歩んでいける力をつける場所が中学校、2つの「じりつ」、「自立・自律」の力を身に付ける場所が中学校。12歳から15歳の3年間で目指すところは「自立」「自律」です。

まず「自分で立つ」と書く方の「自立」とは、他からの影響や従属から離れ、独り立ちすること。これを中学校に置き換えると、『できるだけ、先生や親の力を借りずに、一人でやるには仲間と協力して、勉強も部活動や習い事も家族としての役割も学校行事も、がんばること。先生や親からの支配や助けを受けずに、存在すること』となります。簡潔に言うところ、自分自身で学習や部活動などにどんどんチャレンジすることができ、状態にあること。この状態を自立度が高い状態といえます。

次に「自らを律する」方の「自律」ですが、「自律」とは、「他からの支配や制約を受けることなく、自分自身でたてたきまりに従い、行動すること」。

先生や親からの支配や助けを受けずに、自分自身で立てた生活スケジュールに従って行動すること」となります。

つまり、強制的な学びから自主的な学びへと、自ら自身で適切なスケジュールを立てることができ、それ通りに行動できる状態にあることを、自律度が高い状態といえます。

手を放して、子供に任せるといことを学校と家庭と連携しながら増やしていくことと思っています。

これからの3年間で、できるだけ「手を放しましう。でも、「目」や「心」は離さないようにしましう。どんどん失敗させま

しょう。できるだけ子供に任せ、子供にやり切らせましよう。そのことが子供の成長、自立・自律には大切なことだと考えています。

子供の目の前に石があると、その石を取り除いて歩きやすいようにする親がいます。教員がいます。これでは子供は育ちません。石につまずいて転んでもいいんです。そこから、次は自分で石を取り除いて歩くことを学びます。これが自立・自律です。

自立・自律する段階で、生徒はもう一つ大切なことを身に付けていきます。それは本当の自分を見つけてよとすることです。

子供を育てるという、学校教育、家庭教育の最終目標は、子供の自立・自律。私たち教員も、保護者の皆さんも目指す方向性は同じです。違つのは場所だけ。家庭と学校という育てる場所が違つ。これから始まる中学校生活、ぜひ、子供の明るい未来のために共に手をとり合つて進みましよう。

以上が新入生保護者説明会の折に話した内容です。

私達大人の大切な役割は、子どもの「じりつ」を促し、支援していくこと。よきモデルや指針を示し、彼らが主体的に課題を見つけ、解決していけるような環境をつくりに努めたいと思います。

中学生は試行錯誤しながらも、自分の道を自分で探してつくっていくべきです。一歩引いて見守り、彼らに責任をもたせて、任せることが必要です。私達が彼らを「大人扱い」すればするほど、中学生は「大人」に近づきます。

激動の時代を生きる子供たちに「じりつ」は欠かせません。世界中の人々と協調して生活するため、自分の考えを他人に委ねず、しっかりと根拠に基づいた自らの考え・信念を持つことが必要です。3年間の学習を通して、経験の幅を広げ、これからの時代を築いていくための基礎力を身に付けます。



ふれあいセンター 松本所長の講演

「あ、明日・明日 公立後期入試 自分のこれまでの頑張りを信じてガバレ」

ふるさと

育つたところ、必ずしも家庭ではない。心を育てられたところが家庭である。学んだところ、必ずしも母校ではない。良き教師、良き友に巡り会えたところが母校である。生まれたところ、必ずしもふるさとではない。心をとどめたところがふるさとである。心を育てる家庭があり、良き友に巡り会える学校・学級があり、心にとどめるふるさとがある。



また、思春期の「揺れ動き」は時に大きく、一家庭ではとても受け止められないこともあります。だからこそ、PTAという組織があるんだと思っています。家庭と学校、そして家庭同士が協力して知恵を出し合っただけでなく、必要があります。中学生には、様々な大人が重層的に関わることで、経験や考えの幅が広がります。

つなげよう！桜プライド

本年度、自分のまちを知り、人を知り、文化や歴史を誇らしげに語ることが出来る生徒の育成を図るために、「地域学習（ふるさと教育）」を全職員・全生徒で頑張りました。『つなげよう！桜プライド！桜を愛し、桜を知り、桜を届ける』と題して、各学年次のようなテーマ

- ◆1年『#SAKULIO VERSUS〜くらをさるく』桜馬場地区や長崎の「ひと」もの「こと」に関心を持ち、身近なものへの関心を高め、その良さを再認識し、誇りをもつ。
- ◆2年『仕事人・桜を通して』桜馬場地区の「働くこと・働く人」の思いに触れ、未来の桜について考える。
- ◆3年『桜中のファンを増やそう』桜中生として、地域貢献の方法を模索し、地域とのつながりの価値を見出す。

3年生の取組の中から、成果の一端を2つ紹介します。

①左の3つの班は、地域をPRする動画を作成しました。子供たちが作成した4つの動画は、本校のHPにアップしている。左のQRコードからぜひアクセスしてご覧ください。

◆風頭班

井手希・佐々木裕誠(3・1) 岩本悠愛(3・2) 樋口大也・廣山日和(3・3) 村上彪想・山口莉奈(3・4)

◆学校PR班

岩本武大・加藤夢・辻りか・長谷川広雅・松尾歩(3・1)

◆シーボルト班・長崎街道班
田中達也・中村悠里(3・1) 西村慶明(3・4)



②左のメンバーは、地域の伝統行事について地元の方に直接話を聞いて調べ、地域の課題を解決する手段について考え実践に移し、ポスター作成等を行ってくれました。

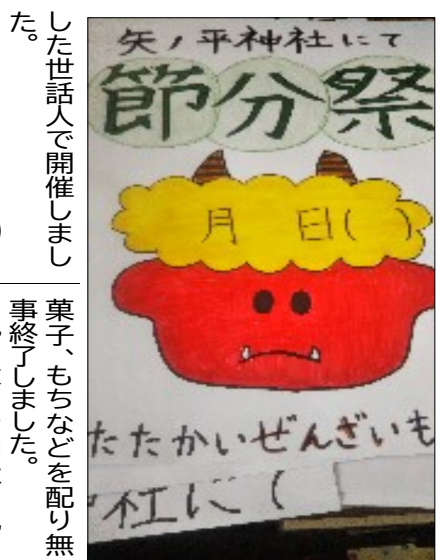
◆水田大和・新谷実杏(3・1) 加藤雄大・森内楓(3・2) 白倉結衣・野呂夏希・松本虹・川原慶太(3・3) 笹田陽彩(3・4)

「節分祭」ポスターが地域の掲示板に掲示され、地域の自治会長さんからお礼の手紙をいただきましたので掲載します。



立春を過ぎると気分的には暖かくなったような感じがしますが、まだまだ冷たい風に身震いする日が続きます。

立春の前日の2月3日には、町内の氏神様矢の平神社の節分祭を矢の平町内の自治会を中心に



した世話人で開催しました。

菓子、もちなどを配り無事終了しました。

開催にあたっては、20日前位から、生徒さんに作成していただいた「節分祭ポスター」を町内の掲示板に1枚ずつ掲示したところ、参詣者から「手書きのポスター、良かったよ」と声をかけていただいたり、大変好評でした。

できるだけ制作者の家の近くの掲示板に掲示したつもりですが、意に沿わなかったところがあったらお詫言います。

当日は、20人〜30人の参詣者があり、豆まきと鬼火焚きをして、豆やお

矢の平二丁目自治会
会長 上野 祐一

◆ペットボトルキャップ回収にご協力を◆

今回で4回目のペットボトルキャップ回収。濱崎前生徒会長が、受け継いできたものを、今期の生徒会でも継続。目標個数 一人20個 クラスあたり800個 全校9600個。ペットボトルキャップ2kgが、ポリオワクチン一人分。誰かのために何かをするこの大切さを感じながら協力をお願いします。

期間は、3月1日(水)〜9日(木) 保護者の方もご協力をお願いします。